



十日町市中魚沼郡医師会の現状について

十日町市中魚沼郡医師会

会長 上 村

齊



十日町市中魚沼郡医師会の現状についてお知らせいたします。

地域の現状①：当地域で唯一お産を取り上げている医院が、分娩取りやめの方向であると地方紙に報道されました。昨年県立十日町病院のお産が休止となったばかりで、大きな衝撃です。若者離れが今以上に増え、地域の衰退は加速度的に進むことが予想されます。ただ、昨年令和6年の出生数は、十日町市114人、津南町32人となっており、もはや採算ベースではなりたたなくなっていました。数年前よりこの事態を予測し、県の病院局、地域医療政策課、地元市町村と医師会も含め協議や、できる支援は行ってきましたが大変残念な結果となってしまいそうです。

地域の現状②：報道などでご存じかもしれませんが、県立病院事業の赤字、負債増加による経営改革の一環で、当地区の県立松代病院が、今年度末をもって病床を返上し、診療所化されることが、先日の魚沼圏域地域医療構想調整会議で承認されました。この件につきましても、県の病院局主導により地域で話し合いが続いていました。しかし、人口減少にともなう病床稼働率の低下と人件費材料光熱費の上昇はいかんともしがたく、県立十日町病院に吸収される形での決着となりそうです。今後は外来と訪問診療を継続し地域医療を維持する予定です。

地域の現状③：魚沼医療圏で医療介護福祉障害の連携ネットワークとして活用している「うおぬま・米ねっと」ですが、10年が経過しサーバー含めシステムの刷新が必要になりました。国も主導している医療DXは欠かせないものですが、やはり費用の問題は避けて通れません。また、昨今はマイナンバーカードの普及、来年より標準型電子

カルテの実用化など取り巻く環境の変化により、スポンサーである市町村は二の足を踏んでいきます。さらに、どんな事柄にもつきものですが、一部の関係者の中にはこのネットワークに否定的で独自路線に傾注しているものもおります。しかし、この圏域でみんなが患者さんのため同じプラットフォームで頑張っていくべきであると思います。

前置きが長くなってしまいました。当医師会の近況をお知らせします。会員数45名(A会員18名、B会員6名、B1会員15名、B2会員4名、C会員2名)の小さな組織です。うれしいニュースとして、一昨年(整形外科)、昨年(内科)と新規開業の先生をお迎えし少し若返りができました。依然還暦越えの先生が多勢を占めていることには変わりありませんが…。日々の診療に加え、学校医・産業医・介護保険認定審査会・休日診療所担当医、県そして市町の多くの医療福祉障害などの会議への出席、保健所・メディカルコントロール・救急業務などを会員の先生方で分担しこなしています。さらに、今年度に入って長年警察医を担っていただいた先生が体調不良で辞退され、12名で警察協力医を交代で行うこととなりました。以上状況は危機的であり少数高齢(精鋭ではない)ではいかんともしがたい現実です。

人海戦術はもはや過去のものであるため、少ない人数での効率化を模索し、令和元年より各方面の関係者で協議を続け、医療介護福祉が横断的に連携すべく、令和5年7月に一般社団法人妻有地域メディカル&ケアネットワークを立ち上げました。大きな成果はまだありませんが、こつこつと実績を積み上げていきたいと思っています。ご声援をよろしくお願いします。